

一般助成 子どもの健やかな成長を願う事業(つながり・かかわり)

「佐賀県子育て応援の店『ばぶ²活』」事業

子育て支援を行っている団体やサークルに活動資金を助成する「ばぶばぶ基金」を創設

核家族化や地域全体での子育てへの関与が薄れる中で、育児の孤立化が社会問題となっている。それを防ぐには、子育て世代の出会いやつながりをサポートし、社会全体で支えていくことが重要である。佐賀県が力を入れる「子育て応援の店事業」の事務局がある佐賀新聞社内に、新たに「ばぶ²活実行委員会」が設立され、「ばぶばぶ基金」の助成がスタートした。



親子が楽しく学び、触れ合えるイベント「ばぶばぶフェスタ」



「子育て応援の店」登録店に掲示されているシール

佐賀県が力を入れる「子育て支援の店」事業の事務局機能を地元新聞社として担う

佐賀県では未来を担う子どもたちが健やかに育つよう、地域社会全体で子育て家庭を応援しようと、2006年から「子育て応援の店事業」を展開している。これは小学校入学前の子どもがいる家庭を対象にしたもので、「子育て応援の店」登録店で会員証を提示すると、商品割引やドリンクサービス、菓子プレゼントなどの特典やサービスが受けられるというもの。現在、登録会員（会員登録は無料）は約3,400名、登録店は佐賀県内全域で約1,500店である。

この事業の事務局は、地元紙である佐賀新聞社の社内に置かれている。事務局では、子育て応援の店や会員の

増加のための活動として、応援の店やサービスが一覧になったガイド冊子の発行、月2回のメールマガジン配信、佐賀新聞紙面に毎月2回、「ばぶばぶ通信」という子育てに関する情報の掲載、毎年秋に「出会う・つながる」をテーマに親子が楽しく学び、触れ合える機会となるイベント「ばぶばぶフェスタ」などを実施している。

また、売上金の一部を子育て支援活動にいかす目的で、コカ・コーラウエストの協力を得て、佐賀県子育て応援自販機という清涼飲料水の自動販売機を設置する取り組みも行っている（現在5台）。2009年に設置が始まったが、積立金がある程度の金額になったことで、それを原資に「ばぶばぶ基金」を創設し、佐賀県内で子育て支援に取り組む団体に助成を行うことにした。

自販機から得られる積立金を活用した基金を3つの子育て支援団体に助成

「資金難に直面している子育て支援サークルの活動を支えることで、子育て世代に優しい社会にしていこうという趣旨のもと、昨年度から助成事業をスタートしました」と、「ばぶばぶ基金」運営のために事務局内に新たに設けられた「ばぶ²活実行委員会」の吉丸正栄さんは話す。実行委員会では、昨年11月から3回にわたり、佐賀新聞紙上で助成先募集の告知を行ったほか、チラシを作成してばぶばぶフェスタで配布したり、ホームページなどで告知を行った。こうした広報活動や、助成先決定後の新聞特集記事（2ページ）の掲載などに、AJOSCの助成が役立てられた。

12月の募集締切までに14団体から応募があり、今年1月に行われた審査（審査員：実行委員会2名、佐賀県こども未来

課1名、佐賀女子短期大学副学長1名）の結果、リズム体操、手遊び、絵本の読み聞かせなどに取り組む「ひめりんご」、定期的に読み聞かせ会などを開催している「おおきなかぶ」、母親たちのつながりを深め、産前産後の情報共有などの活動を行っている「はぐはぐ」の3団体に各10万円の助成金が贈られた。

「どの団体も甲乙つけがたかったのですが、活動の広がりや継続性という観点から、この3団体が選ばれました。これを機会に子育て支援の団体同士の横のつながりが生まれることも願っています」と、同じく佐賀新聞社の松田毅さんは審査結果と今後について、そう話す。ばぶばぶ基金が、今後、佐賀県内に子育て支援の輪を広げる役割を果たしていくことを期待したい。



佐賀新聞紙面に掲載された助成先を募集する広告



佐賀新聞に掲載された「ばぶばぶ基金」の活動の特集する記事

助成団体: 佐賀県子育て応援の店事業「ばぶ²活」実行委員会 <https://kosodate.saga-s.co.jp>



「ばぶばぶ基金」の助成先募集や特集記事の掲載に助成を活用

佐賀県の未来のために若い世代を応援していくことも地元紙の役割のひとつだと考えています。今回、AJOSCからの助成により、「ばぶばぶ基金」周知のための新聞記事掲載やチラシなどを作成することができました。子育て支援を続ける団体にもインパクトがあったと思います。この基金をぜひとも、継続・発展させていきたいと思っています。

佐賀県子育て応援の店事業「ばぶ²活」実行委員会
佐賀新聞社 営業局 吉丸 正栄さん